

登別総鎮守

刈田神社

■年間の主な祭典行事

一月一日	歳旦祭
一月七日、十五日	どんど祭
二月三日	節分祭
二月十一日	紀元祭
二月十七日	祈年祭
六月三十日	夏越大祓
八月二十三日	例大祭
九月第一土曜日	宵宮祭
九月第一日曜日	神幸祭
十一月二十三日	新嘗祭
十二月三十一日	年越大祓
十二月三十一日	除夜祭

■御祈祷

初宮詣	七五三詣	成人奉告
学業成就	合格祈願	就職祈願
良縁祈願	子宝祈願	安産祈願
家内安全	交通安全	旅行安全
心身健康	病氣平癒	心願成就
厄難消除	方位除け	仕事安全

厄除け(男性二十五、四十二、六十二)
(女性 十九、三十三、三十七)
年祝い
(還暦、古希、喜寿、傘寿、
米寿、卒寿、白寿)
神前結婚式
新年安全祈願(個人・会社)

■出張祭典

地鎮祭	上棟式	新宅祭
竣工式	中古家祓	解体清祓
樹木伐採清祓	井戸祓	神棚清祓
社内安全	商売繁盛	工事安全
海上安全	進水式	工場安全

神前結婚式

新春安全祈願(個人・会社)

年間を通して受付けております。
お気軽にお問い合わせください。

刈田神社事務所

〒0500012
北海道登別市中央町6-24-1
電話 0143852460
FAX 0143883618



刈田神社



創祀年代は明らかではないが、『北海道縁起物語』によると、

平安時代には前身となる妙見菩薩の祠が建てられたという。

天明六年（一七八六）幌別郡（現・登別市）が松前藩士細田儀右衛門の給地に指定されたのを契機に妙見菩薩の祠を再建し、保食神を合祀して妙見稲荷社と称し、胆振地方の鎮守社とする。

明治三年（一八七〇）白石藩城主片倉小十郎邦憲が家臣百五十余名を従え胆振国幌別郡へ移住し、片倉氏の守護神刈田嶺神社（延喜式内社、宮城県刈田郡総鎮守、別名・白鳥大明神）の御祭神である日本武尊の御分霊を奉じて合祀し、幌別郡開拓の守護神とする。

明治四年（一八七二）御社殿を幌別村字浜七十番地（現・登別市幌別町一丁目）に新しく建立し、社名を刈田神社と改称する。

明治六年（一八七三）四国からの開拓者が金刀比羅宮（延喜式内社、香川県御鎮座、旧国幣中社）の御分霊を奉じて合祀する。

明治八年（一八七五）には、幌別郡の郷社と公称する。

大正一五年（一九二六）には、現在の境内地（登別市中央町六丁目）へ御遷座する。

御祭神

保食神 食物の神。保食神の体から五穀、牛馬、蚕が生まれた。

大物主神 大国主命が自らの和魂を大和国の三輪山に祀ったとされる神。また琴平山に宮を設け、中国、四国、九州を統治したとされる。

日本武尊 第十二代景行天皇の皇子。

九州南部・東国を平定したとされる日本古代の英雄。

御神徳

刈田神社は、五穀豊穰、食物の神である保食神を奉斎していることから、農業、衣食住守護、産業繁栄、商売繁昌に、また大物主神を奉斎した琴平山が航海の目印であったことから航海安全に、また大物主神が大国主命の和魂（にぎみたま）とされていることから、縁結び、子宝、病氣平癒、技芸向上に、さらに武勇と知勇に優れ、国土を平定した英雄であった日本武尊を奉斎していることから、国土安穩、必勝、合格、仕事成就、厄難消除、交通安全にも御利益があるとされている。

